

## 第4次農林水産業元気創造戦略の達成状況（令和7年10月末時点）

## I 共通目標・共通目標指標

ウィズ・ポストコロナを見据え、本県農林水産業における新たな活力を創造していくため、引き続き、これまでの高付加価値化やブランド化に向けた取組みを推進していくとともに、本県農林水産物の、県内外、さらには国外への販売を拡大していく取組みを通して、食料供給県としての本県農林水産業のさらなる発展と生産者の所得向上を目指す。

## 【共通目標】

**県民・国民のいのちをつなぐ食料供給県やまがたのさらなる発展**

## 【共通目標指標】

**生産額ベース 食料自給率 200%超**（参考）計画策定時現状値：181%（H30年度）  
（県民全体の食料消費額の2倍の金額を生産し、売り上げ、国内外に供給）

分野別の5つの基本戦略に基づくプロジェクト方式で推進  
63のプロジェクトと83の数値目標を設定

## II 5つの基本戦略と63のプロジェクト

## 【基本戦略1】意欲ある多様な担い手の育成・確保《人づくり》

農業の担い手育成・確保支援、専門職大学設置、農業トップランナー育成・発展、スマート農業普及加速、農業経営セーフティネット強化などの11プロジェクト

【基本戦略2】<sup>むら</sup>活気あるしなやかな農村の創造《農村づくり》

水田農業の低コスト化に向けた基盤整備促進、次世代人材の定着に向けた園芸団地形成推進、災害等に強い農業・農村づくり、元気な農村（むら）づくり総合支援、中山間・棚田地域持続的農地保全・振興、持続可能な農業生産推進などの8プロジェクト

【基本戦略3】<sup>かち</sup>魅力ある稼げる農林水産業の追求《魅力づくり》

県産米ブランド化推進プロジェクト、山形さくらんぼ世界一ブランド強化、山形えだまめ日本一産地化、地域で支える畜産生産基盤強化、やまがたの和牛増頭・評価向上、6次産業化推進基盤強化、「おいしい山形」推進、県産農産物等輸出拡大などの30プロジェクト

【基本戦略4】<sup>もり</sup>「やまがた森林ノミクス」の加速化《森林づくり》

林業を支える人材育成と事業体強化、県産木材安定供給推進、主伐・再造林推進、県産木材の加工流通体制強化と付加価値向上、県産木材の利用促進などの9プロジェクト

【基本戦略5】<sup>うみかわ</sup>水産業の成長産業化《海川づくり》

持続可能な海面漁業生産基盤整備、海面漁業の成長産業化に向けた経営基盤強化など5プロジェクト

## III 達成状況

## ◎ 共通目標指標

■ 実施期間の3年目である令和5年度の生産額ベース食料自給率は167%となっている。食料生産額は横ばいであるのに対し、輸入食料の値上がりで食料支出額が増加しており、平成30年度の181%と比べて低くなっている。

## ◎ 評価指標（KPI）

■ 18項目のうち、令和6年度までの実績値が判明しているのが6項目、令和5年（度）までの実績値が判明しているのが11項目、令和4年（度）までの実績値が判明しているのが1項目となっている。5項目で直近の実績値が目標を「達成」、4項目で「概ね達成」となっている。（達成・概ね達成の割合は50%）

## ◎ プロジェクト目標指標

■ 83項目のうち、目標年の実績値が判明しているのは59項目となっている。23項目で直近の実績値が目標を「達成」、25項目で「概ね達成」となっている。（達成・概ね達成の割合は58%）

## 表 評価指標（KPI）の達成状況

〔目標値に対する実績値の評価：◎：達成 ○：概ね達成（80%以上かつ策定時より上昇・改善）△：遅れ・未達成〕  
〔斜体は直近値〕

	評価指標（KPI）	現状値（策定時）	目標値（R6）	実績値（R6）	評価
基本戦略1	新規就農者数の東北における順位	1位（R2）	1位	1位	◎
	スマート農業の取組件数（累計）	77件（R1）	150件	254件	◎
基本戦略2	農地整備実施地区の大区画整備面積（累計）	3,560ha（H30）	4,700ha	4,589ha	○
基本戦略3	農業産出額	2,480億円（H30）	2,591億円（R5）	2,441億円（R5）	△
	うち 米による産出額	835億円（H30）	865億円（R5）	739億円（R5）	△
	うち 果実による産出額	709億円（H30）	723億円（R5）	743億円（R5）	◎
	うち 野菜による産出額	472億円（H30）	480億円（R5）	418億円（R5）	△
	うち 畜産による産出額	361億円（H30）	413億円（R5）	441億円（R5）	◎
	農業者当たり産出額	639万円（H30）	718万円（R5）	733万円（R5）	◎
	生産農業所得の東北における順位	2位（H30）	2位（R5）	3位（R5）	△
	6次産業化付加価値額	581億円（H30）	625億円（R4）	559億円（R4）	△
	県産農産物の輸出額	9億円（H30）	15億円	13.7億円	○
	林業産出額	82億円（H30）	92億円（R5）	82億円（R5）	○
基本戦略4	うち きのこと類等による産出額	52億円（H30）	59億円（R5）	40億円（R5）	△
	県産木材供給量	53.5万m <sup>3</sup> （R1）	70万m <sup>3</sup>	55.1万m <sup>3</sup>	△
	再造林率	64%（R1）	100%	90%	○
基本戦略5	海面漁業・養殖業による産出額	22億円（H30）	32億円（R5）	20億円（R5）	△
	経営体当たり海面漁業生産額	695万円（H30）	824万円（R5）	631万円（R5）	△

第4次農林水産業元気創造戦略 評価指標・目標指標達成状況一覧(令和7年10月末日現在)

令和3年達成状況集計

達成度	評価指標(KPI)			目標指標(目標が設定されている項目数: 80)		
	項目数	割合	判別分	項目数	割合	判別分
達成	3	16.7%	16.7%	33	42.3%	42.3%
概ね達成	2	11.1%	11.1%	19	24.4%	24.4%
遅れ・未達成	13	72.2%	72.2%	26	33.3%	33.3%
計	18	100.0%		78	100.0%	
未公表等	0	0.0%		0	0.0%	

令和4年達成状況集計

達成度	評価指標(KPI)			目標指標(目標が設定されている項目数: 80)		
	項目数	割合	判別分	項目数	割合	判別分
達成	4	22.2%	22.2%	29	36.3%	36.3%
概ね達成	6	33.3%	33.3%	26	32.5%	32.5%
遅れ・未達成	8	44.4%	44.4%	25	31.3%	31.3%
計	18	100.0%		80	100.0%	
未公表等	0	0.0%		0	0.0%	

令和5年達成状況集計

達成度	評価指標(KPI)			目標指標(目標が設定されている項目数: 80)		
	項目数	割合	判別分	項目数	割合	判別分
達成	5	27.8%	29.4%	24	29.3%	29.3%
概ね達成	5	27.8%	29.4%	29	35.4%	35.4%
遅れ・未達成	7	38.9%	41.2%	29	35.4%	35.4%
計	17	94.4%		82	102.5%	
未公表等	1	5.6%		0	0.0%	

最終達成状況集計

達成度	評価指標(KPI)			目標指標(項目数: 80)		
	項目数	割合	判別分	項目数	割合	判別分
達成	2	11.1%	33.3%	17	20.5%	26.8%
概ね達成	3	16.7%	50.0%	15	18.1%	25.4%
遅れ・未達成	1	5.6%	16.7%	27	32.5%	45.8%
計	6	33.3%		59	73.8%	
未公表等	12	66.7%		24	28.9%	

<<達成度>>  
達成 (100%) : ■  
概ね達成 (80~100%、かつ、策定時より上昇・改善) : ■  
遅れ・未達成 (80%未満、又は、策定時より低下・悪化) : ■

No.	評価指標(KPI) プロジェクト目標指標	単位	現状	基準 年・年度	R3 目標	R3年 実績	R3		R4 目標	R4年 実績	R4		R5 目標	R5年 実績	R5		R6 目標	R6年 実績	R6		R6 達成・未達成の理由
							達成率	達成度			達成率	達成度			達成率	達成度			達成率	達成度	

基本戦略1 意欲ある多様な担い手の育成・確保

新規就農者数の東北における順位	位	1	R2年度	1	1	100%	達成	動機付け段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことにより、目標は達成。	1	1	100%	達成	動機付け段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことにより、目標は達成。	1	1	100%	達成	動機付け段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことにより、目標は達成。	1	R6年度	1	100%	達成	動機付け段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことにより、目標は達成。
スマート農業の取組件数(累計)	件	77	R1年度	105	112	107%	達成	県内各地域で技術の実証・展示を行ったことにより、取り組む農業業者が増加し、目標は達成。	120	134	112%	達成	技術の実証・展示を行ったこと、国のスマート農業機械導入補助事業により、取組み生産者が増加し、目標は達成。	135	211	156%	達成	技術の実証・展示や農業用機械・機器等の導入に対する国の補助事業等の活用により、目標を大きく上回って達成。	150	R6年度	254	169%	達成	技術の実証・展示や農業用機械・機器等の導入に対する国の補助事業等の活用により、目標を大きく上回って達成。

基本戦略2 活気あるしなやかな農村の創造

農地整備実施地区の大区域整備面積(累計)	ha	3,560	H30年度	4,130	4,108	99.5%	概ね達成	令和3年度に実施した区画整理工事のうち、約7割を大区域は場として整備し、目標は概ね達成。	4,320	4,287	99%	概ね達成	令和4年度に実施した区画整理工事のうち約7割を大区域は場として整備し、目標は概ね達成。	4,510	4,413	98%	概ね達成	令和5年度に実施した区画整理工事のうち約6割を大区域は場として整備し、目標は概ね達成。	4,700	R6年度	4,589	98%	概ね達成	令和6年度に実施した区画整理工事のうち約8割を大区域は場として整備し、目標は概ね達成。
----------------------	----	-------	-------	-------	-------	-------	------	--	-------	-------	-----	------	---	-------	-------	-----	------	---	-------	------	-------	-----	------	---

基本戦略3 魅力ある稼げる農林水産業の追求

4	農業産出額	億円	2,480	H30年	2,547	2,337	92%	遅れ・未達成	前年より米及び畜産の産出額が減少したことにより171億円の減額となり、目標は未達成。	2,571	2,394	93%	遅れ・未達成	前年より果実及び畜産の産出額が増加し、前年より57億円の増額となったものの目標は未達成。	2,591	2,441	94%	遅れ・未達成	前年より米及び畜産の産出額が増加し、前年より47億円の増額となったものの目標は未達成。	2,620	R6年	未公表			
5	米産出額	億円	835	H30年	855	701	82%	遅れ・未達成	令和3年の米生産は、作反指数は104であったが、需要減少に伴う価格低下から産出額は減少し、目標は未達成。	860	689	80%	遅れ・未達成	主食用米の作付面積が減少して収穫量が少なく、令和4年度概算値(JA概算値)から手数を差し引いた試算値が前年より高かったものの産出額は減少し、目標は未達成。	865	739	85%	遅れ・未達成	需要が堅調に推移して令和5年度概算値(JA概算値)から手数を差し引いた試算値は前年より高まり、産出額は増加したものの、主食用米の作付面積が減少して収穫量が少なく、目標は未達成。	868	R6年	未公表			
6	果実産出額	億円	709	H30年	714	694	97%	遅れ・未達成	4月の連雨害と開花期の天候不良で、さくらんぼ、りんご等の収穫量減少により目標は未達成	719	766	107%	達成	生産者の高品質・安定生産により収穫量が回復し、販売単価が高水準で推移したため目標は達成。	723	743	103%	達成	収穫量は、夏季の高湿少雨等の影響のため、りんご、さくらんぼ及びみかんは、冬の収穫で減少したものの、販売価格が高水準であったため、目標は達成。	727	R6年	未公表			
7	野菜産出額	億円	472	H30年	474	455	96%	遅れ・未達成	主要果菜類の品目を中心に販売単価が低下したことや、果菜類の主力品目であるかぼちゃ・パプリカが5月の寒害等により生産量が減少したため、目標は未達成。	477	426	89%	遅れ・未達成	主要果菜類の品目を中心に、8月の集中豪雨などで生育期間中の天候不順等の影響により生産量が減少したため、目標は未達成。	480	418	87%	遅れ・未達成	高湿少雨の影響で、主要果菜類品目の生産量が減少したため、目標は未達成。	485	R6年	未公表			
8	畜産産出額	億円	361	H30年	396	392	99%	概ね達成	継続拡大による飼養頭数の増加と生産性の向上により目標を概ね達成	404	411	102%	達成	需要回復に伴う豚産肉と牛の販売単価向上と、豚の販売単価増加により目標を達成	413	441	107%	達成	養豚と牛の出荷頭数の増加、豚の仕入れ価格の上昇及び鶏卵単価の上昇に伴う販売単価増加により目標を達成	423	R6年	未公表			
9	農業者当たり産出額	万円	639	H30年	670	612	91%	遅れ・未達成	前年より農業産出額が減少したことと減額し、目標は未達成。	693	665	96%	概ね達成	前年より農業産出額が増加したことと増額となり、目標を概ね達成。	718	733	102%	達成	前年より農業産出額が増加したことと増額となり、目標を達成。	745	R6年	未公表			
10	生産農業所得の東北における順位	位	2	H30年	2	3	—	遅れ・未達成	農業産出額の減少に伴い生産農業所得が減少した。順位は前年と同じであり、目標は未達成。	2	3	—	遅れ・未達成	農業産出額は増加したものの、資材価格等の高騰で生産農業所得は減少した。順位は前年と同じであり、目標は未達成。	2	3	—	遅れ・未達成	農業産出額が増加に伴い生産農業所得も増加したものの、順位は前年と同じであり、目標は未達成。	1	R6年	未公表	—		
11	6次産業化付加価値額	億円	581	H30年	613	651	106%	達成	食料品製造業や飲料製造業等の付加価値額が増加したことにより、目標は達成。	625	559	89%	遅れ・未達成	商品開発の支援やマッチング等を行ったものの、畜産食料品製造業で減少がみられ、目標は未達成。	637	未公表			650	R6年	未公表				
12	県産農産物の輸出額	億円	9	H30年度	12	9	75%	遅れ・未達成	令和3年度は各国の経済活動が徐々に再開したことに伴い輸出量は過去最多となった。輸出額は過去5年間で2番目に高い金額となったが単価の高い牛肉で伸び悩み目標を下回った。	13	10.5	81%	概ね達成	令和4年度はりんご等の輸出量が増加したことから、輸出量、輸出額ともに過去最高を更新し、目標は概ね達成。	14	11.5	82%	概ね達成	令和5年度は「米」の輸出量が増加したこと等から、輸出量、輸出額ともに過去最高を更新し、目標は概ね達成。	15	R6年度	13.7	91%	概ね達成	令和6年度は「米」の輸出量が増加したこと等から、輸出量、輸出額ともに過去最高を更新し、目標は概ね達成。

基本戦略4 「やまがた森林/ミクス」の加速化

林業産出額	億円	82	H30年	88	69	79%	遅れ・未達成	ウッドショックの影響で木材価格が上昇し、木材生産額は増加したが、きのこ類等産出額の減少により、目標は未達成となった。	90	87	97%	概ね達成	ウッドショックの影響による木材価格の高止まりが続いたことや、製材用、集成材用の原木需要が増加したことにより、概ね達成となった。	92	82	89%	概ね達成	ウッドショックの影響による木材価格の高止まりが続いたことにより、概ね達成となった。	95	R6年	未公表			
きのこ類等産出額	億円	52	H30年	56	38	67%	遅れ・未達成	生産者の高齢化や産地間競争の激化により、生産量が落ち込んだこと、販売単価が下落したことにより、目標は未達成。	57	37	65%	遅れ・未達成	生産者の高齢化や産地間競争の激化により、生産量が落ち込んだことにより、目標は未達成。	59	40	68%	遅れ・未達成	生産者の高齢化・減少や産地間競争の激化により、生産量が落ち込んだことにより、目標は未達成。	60	R6年	未公表			
県産木材供給量	万㎡	53.5	R1年	60	52.7	88%	遅れ・未達成	R2にコロナの影響で木材の流通が停滞し、製材所向けの材が不足・パオマス施設に多く流れ在庫を拡大したこと、R3の製材生産量が落ち込み、目標は未達成。	63	58	92%	概ね達成	ウッドショックにより、国産製材品需要が高まり、製材用、集成材用向けの原木需要が増加したこと、R4製材生産量が増加、目標は概ね達成。	67	59.1	88%	概ね達成	高性能林業機械の導入により林業労働生産性が向上したため、製材生産量は増加し、目標は概ね達成。	70	R6年	55.1	79%	遅れ・未達成	災害による原木生産の停滞と製材用チップの需要減の影響等により製材生産量は減少し、目標は未達成。
再造林率	%	64	R1年度	100	72	72%	遅れ・未達成	再造林面積(分子)は伸びたが、コロナの影響で減少した主産林面積(分母)が、ウッドショックの影響等で急増したことにより、目標は未達成。	100	76	76%	遅れ・未達成	再造林面積(分子)は伸びたが、伐期節を越える山林の割合増加やウッドショックの影響等で単位面積(分母)も増加したことにより、目標は未達成。	100	88	88%	概ね達成	再造林の支援強化等により再造林面積が増加し、目標は概ね達成。	100	R6年度	90	90%	概ね達成	再造林面積は横ばいであったものの再造林率は上昇し、目標は概ね達成。

基本戦略5 水産業の成長産業化

漁業産出額(海面漁業・養殖業)	億円	22	H30年	28	22	79%	遅れ・未達成	令和3年は全国的に水産資源(サケ、イカなど)が不足し、本県においても主要魚種であるスルメイカ、サケ、タラ、ハタハタの漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	30	24	80%	概ね達成	県外によるスルメイカの漁獲量が一定であったことにより目標は概ね達成。	32	20	63%	遅れ・未達成	本県の主力魚種である、ハタハタ、サケの漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	35	R6年	未公表			
経営体当たり海面漁業生産額	万円	695	H30年	772	617	80%	遅れ・未達成	令和3年は全国的に水産資源(サケ、イカなど)が不足し、本県においても主要魚種であるスルメイカ、サケ、タラ、ハタハタの漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	798	621	78%	遅れ・未達成	本県の主力魚種であるスルメイカ、ハタハタの漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	824	631	77%	遅れ・未達成	本県の主力魚種である、ハタハタ、サケの漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	850	R6年	未公表			

評価指標 (KPI) プロジェクト目標指標		単位	現状	基準 年・年度	R3 目標	R3年 実績	達成率	達成度	R3 達成・未達成の理由	R4 目標	R4年 実績	達成率	達成度	R4 達成・未達成の理由	R5 目標	R5年 実績	達成率	達成度	R5 達成・未達成の理由	最終 目標	年・年度	R6年 実績	達成率	達成度	R6 達成・未達成の理由
プロジェクト目標指標																									
基本戦略1 意欲ある多様な担い手の育成・確保																									
①人材育成・確保																									
(1)	新規就農者数 (4年間の累計)	人	1,354	H29～R2 年度	360	357	99%	概ね達成	動機付け段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことによる。	720	715	99%	概ね達成	動機付け段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことにより目標は達成。	1,090	1,093	100%	達成	動機付け段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことにより目標は達成。	1,460	R6年度	1,476	101%	達成	動機付け段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことにより目標は達成。
(2)	無料職業紹介所等における マッチング数	件	585	R2年度	600	397	66%	遅れ・未達成	さらんぼでは遠隔地により求人が減少したほか、秋田では令和2年度コロナの影響による休業等で一時的に求職者が増加したが、令和3年度は営業再開に伴い求職者が減少。	650	392	60%	遅れ・未達成	水稲、野菜、花きでの成立数が増加したが、さらんぼでの成立数が減少したため、目標は未達成。	700	400	57%	遅れ・未達成	農業者が他の求人方法 (daywork)へ切り替えたこと、高湿の被害でさらんぼや野菜の収穫作業に係る求人数が減少したこと等が影響し、目標は未達成。	750	R6年度	370	49%	遅れ・未達成	農業者への求人方法 (daywork)へ切り替えたこと、高湿の被害でさらんぼや野菜の収穫作業に係る求人数が減少したこと等が影響し、目標は未達成。
(3)	農福連携に取り組む経営体等	組織	59	R2年度	70	85	121%	達成	農業側と福祉側の相互理解を進めるため、農業体協会や現地視察、研修会等の取組みを実施していることによる。	80	94	118%	達成	農業側と福祉側の相互理解を進めるため、農業体協会や現地視察、研修会等の取組みを実施していることによる。	90	108	120%	達成	農業側と福祉側の相互理解を進めるため、農業体協会や現地視察、研修会等の取組みを実施していることによる。	100	R6年度	116	116%	達成	農業側と福祉側の相互理解を進めるため、農業体協会や現地視察、研修会等の取組みを実施していることによる。
(4)	しあわせアグリビジネスプラン 件数(累計)	件	76	R2年度	84	86	102%	達成	次世代リーダー育成セミナーとして「アグリウーマン」を開設し、講義、演習、個別相談を組み合わせた、女性農業者の経営改善、経営多面サポートを行い、目標は達成。	92	97	105%	達成	次世代リーダー育成セミナーとして「アグリウーマン」を開設し、講義、演習、個別相談を組み合わせた、女性農業者の経営改善、経営多面サポートを行い、目標は達成。	100	115	115%	達成	次世代リーダー育成セミナーとして「アグリウーマン」を開設し、講義、演習、個別相談を組み合わせた、女性農業者の経営改善、経営多面サポートを行い、目標は達成。	108	R6年度	127	118%	達成	次世代リーダー育成セミナーとして「アグリウーマン」を開設し、講義、演習、個別相談を組み合わせた、女性農業者の経営改善、経営多面サポートを行ったことにより、目標は達成。
(5)	東北農林専門職大学の令和6年4月開学	—	—	—	—	—	—	—	—	認可申請	認可申請	—	達成	令和6年4月の開学に向け、令和4年10月20日に文部科学省へ大学設置認可申請書を出したことから目標は達成。	認可	認可	—	達成	令和5年9月4日付で文部科学大臣から設置が認可されたことにより目標は達成。	開学 (入学者40名)	R6年	開学 (入学者43名)	—	達成	令和6年4月に開学したことから目標は達成
②担い手・経営体育成																									
(6)	農産物販売額1,000万円以上の経営体数	経営体	3,442	R2年	3,600	3,300	92%	遅れ・未達成	令和2年7月の豪雨被害により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となった。	3,750	3,700	99%	概ね達成	農業用機械・施設等の導入に対する国の補助事業等の積極的な活用により、目標は概ね達成。	3,900	3,300	85%	遅れ・未達成	令和4年8月の大雨による被害等により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となった。	4,050	R6年	3,200	79%	遅れ・未達成	令和5年の夏季豪雨による被害等により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となった。
(7)	農産物販売額3,000万円以上の経営体数	経営体	631	R2年	659	600	91%	遅れ・未達成	令和2年7月の豪雨被害により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となった。	686	700	102%	達成	農業用機械・施設等の導入に対する国の補助事業等の積極的な活用により、目標は未達成となった。	713	600	84%	遅れ・未達成	令和4年8月の大雨による被害等により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となった。	740	R6年	700	95%	概ね達成	農業用機械・施設等の導入に対する国の補助事業等の積極的な活用により、概ね目標は達成。
(8)	農産物販売額1億円以上の経営体数	経営体	122	R2年	128	100	78%	遅れ・未達成	令和2年7月の豪雨被害により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となった。	133	100	75%	遅れ・未達成	農業用機械・施設等の導入に対する国の補助事業等の積極的な活用によりには至らず、目標は未達成。	138	100	72%	遅れ・未達成	農業用機械・施設等の導入に対する国の補助事業等の積極的な活用によりには至らず、目標は未達成。	143	R6年	100	70%	遅れ・未達成	農業用機械・施設等の導入に対する国の補助事業等の積極的な活用によりには至らず、目標は未達成。
(9)	新規就農者受入協議会等の設置数	組織	15	R2年度	20	15	75%	遅れ・未達成	市町村へ新規就農者受け入れ体制構築に係る先行事業や関係事業者の協力、関係自身による協議会への支援情報提供の不足	25	15	60%	遅れ・未達成	市町村へ新規就農者受け入れ体制構築に係る先行事業や関係事業者の協力、関係自身による協議会への支援情報提供の不足	30	15	50%	遅れ・未達成	令和5年度から協議会設立に対する補助事業を開始し、新設と継続する自治体も出てきたが設立までには至らず、目標は未達成。	35	R6年度	15	43%	遅れ・未達成	令和5年度から協議会設立に対する補助事業を開始し、新設と継続する自治体も出てきたが設立までには至らず、目標は未達成。
(10)	女性新規就農者数	人	56	R2年度	60	94	157%	達成	動機付け段階から就農初期に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことによる。また、農業法人の増加に伴い女性の働くが増え、労働環境も改善されたことによる。	70	82	117%	達成	動機付け段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことによる。また、農業法人等で、女性が働きやすい労働環境整備が進んだことにより目標は達成。	85	86	101%	達成	動機付け段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことによる。また、農業法人等で、女性が働きやすい労働環境整備が進んだことにより目標は達成。	100	R6年度	93	93%	概ね達成	動機付け段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことによる。また、農業法人等で、女性が働きやすい労働環境整備が進んだことにより目標は達成。
(11)	農業法人数	法人	752	R2年度	780	771	99%	概ね達成	山形県農業経営者協会及び各総合支庁の農業経営支援チームを中心に、農業団体、専門家等と連携し、法人化及び経営発展を支援してきたことによる。	820	815	99%	概ね達成	山形県農業経営者協会支援センター及び各総合支庁の農業経営支援チームを中心に、農業団体、専門家等と連携し、法人化及び経営発展を支援してきたことにより目標は概ね達成。	860	841	98%	概ね達成	山形県農業経営者協会支援センター及び各総合支庁の農業経営支援チームを中心に、農業団体、専門家等と連携し、法人化及び経営発展を支援してきたことにより目標は概ね達成。	900	R6年度	860	96%	概ね達成	山形県農業経営者協会支援センター及び各総合支庁の農業経営支援チームを中心に、農業団体、専門家等と連携し、法人化及び経営発展を支援してきたことにより目標は概ね達成。
(12)	担い手への農地集積率	%	66.4	R1年度	75	69	92%	概ね達成	県内4地域の「地域支援チーム」を中心に、市町村の地元の農業者へ向け、進捗状況の共有を図るとともに、農地集積・集約化に向けた取組みを進めてきたことにより、目標を概ね達成。	80	70	88%	概ね達成	県内4地域の「地域支援チーム」を中心に、市町村の地元の農業者へ向け、進捗状況の共有を図るとともに、農地集積・集約化に向けた取組みを進めてきたことにより、目標を概ね達成。	85	71.1	84%	概ね達成	県内4地域の「地域支援チーム」を中心に、市町村の地元の農業者へ向け、進捗状況の共有を図るとともに、農地集積・集約化に向けた取組みを進めてきたことにより、目標を概ね達成。	90	R6年度	未公表			県内4地域の「地域支援チーム」を中心に、市町村の地元の農業者へ向け、進捗状況の共有を図るとともに、農地集積・集約化に向けた取組みを進めてきたことにより、目標を概ね達成。
(13)	農地中間管理機関連農地整備事業による農地整備面積(累計)	ha	3	R1年度	80	66	83%	概ね達成	農地中間管理事業の活用により事業推進を図っている。事業の周知とともに、関係県民協力会のPRや地元の農業者等の協力により関係向上に繋がり、目標は概ね達成。	150	140	93%	概ね達成	農地中間管理事業の活用により事業推進を図っている。事業の周知とともに、関係県民協力会のPRや地元の農業者等の協力により関係向上に繋がり、目標は概ね達成。	220	189	86%	概ね達成	農地中間管理事業の活用により事業推進を図っている。事業の周知とともに、関係県民協力会のPRや地元の農業者等の協力により関係向上に繋がり、目標は概ね達成。	300	R6年度	234	78%	遅れ・未達成	地元及び他府県協議等による修正設計に時間を要し、事業進捗に遅れが生じているものの、令和7年度以降も継続して実施し事業進捗を図る。
(14)	スマート農業の取組件数(累計)	件	77	R1年度	105	112	107%	達成	県内各地域で技術の実証・展示を行ったことにより、取組む農業業者が増加した。	120	134	112%	達成	技術の実証・展示を行ったことで、国のスマート農業推進導入補助事業により、取組む生産者が増加し目標は達成。	135	211	156%	達成	技術の実証・展示や農業用機械・機器等の導入に対する国の補助事業等の活用により、目標を大きく上回って達成。	150	R6年度	254	169%	達成	技術の実証・展示や農業用機械・機器等の導入に対する国の補助事業等の活用により、目標を大きく上回って達成。
(15)	新農業情報ポータルサイトのSNSの登録利用者数	人	—	R2年度	サイト稼働	サイト稼働	—	達成	計画通り新農業情報ポータルサイトの構築作業を完了。サイトを稼働し、Facebookに加え、Twitter、YouTubeのアカウントを開設した。	150	100	67%	遅れ・未達成	ポータルサイトは稼働したがFacebookへの動画投稿ができていなかったため、SNS等の登録者数が目標に達しなかったため、目標は未達成。	350	156	45%	遅れ・未達成	ポータルサイト本体のコンテンツ充実やSNSによる情報発信に増加しているが、SNSの独自コンテンツの作成が遅れているためSNS登録者数は目標に達していません。	550	R6年度	190	35%	遅れ・未達成	ポータルサイト本体のコンテンツ充実やSNSによる情報発信に増加しているが、SNSの登録者数は目標に達していません。
(16)	農業経営のセーフティネットの加入推進組織の立ち上げ	—	—	R2年度	設立	設立	—	達成	行政、農業関係団体、各制度の実施主体等で構成する「山形県農業セーフティネット加入促進協議会」を設立するとともに、県内4地域に地域連携会館を設置した。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	設立	R3年度	設立	—	達成	—	
(17)	青色申告者に占める収入保険の加入割合	%	17.8	R3年度	—	—	—	—	—	24.6	33	134%	達成	市町村と協同による推進協議会の助成事業について、全市町村が予算化し、加入を推進したことにより目標を達成。 (全市町村の予算化は全国初)	35.0	35.8	102%	達成	タスクチームの取組みで収入保険への加入促進活動が実施に向けられ、農業業者の経営リスクの軽減が高まり加入が進んだため、目標を達成。	35.0	R6年度	37.1	106%	達成	地域タスクチームの活動により、農業業者が集まる様々な機会を捉え、加入促進活動を行ったため、目標を達成。
基本戦略2 活気あるしなやかな農村の創造																									
③基盤強化・強弱化																									
(18)	農地整備実施地区の大区画整備面積(累計)	ha	3,560	H30年度	4,130	4,108	99.5%	概ね達成	令和4年度に実施した区画整理工事のうち、約7割を大区画ほ場として整備し、目標は概ね達成。	4,320	4,287	99%	概ね達成	令和4年度に実施した区画整理工事のうち約7割を大区画ほ場として整備し、目標は概ね達成。	4,510	4,413	98%	概ね達成	令和5年度に実施した区画整理工事のうち6割を大区画ほ場として整備し、目標は概ね達成。	4,700	R6年度	4,589	98%	概ね達成	令和4年度に実施した区画整理工事のうち約8割を大区画ほ場として整備し、目標は概ね達成。
(19)	基盤整備を実施した農地での担い手による集約化される割合(累計)	%	41	H30年度	84	83.7	99.6%	概ね達成	農地整備事業を契機に、水田における担い手への農地集積・集約化が進み、目標は概ね達成。	86	84.0	98%	概ね達成	農地整備事業を契機に、水田における担い手への農地集積・集約化が進み、目標は概ね達成。	88	84.8	96%	概ね達成	農地整備事業を契機に、水田における担い手への農地集積・集約化が進み、目標は概ね達成。	90	R6年度	85.3	95%	概ね達成	農地整備事業を契機に、水田における担い手への農地集積・集約化が進み、目標は概ね達成。
(20)	大規模園芸団地の数(累計)	団地	20	R2年度	22	21	95%	概ね達成	団地の要件を厳しくしたことにより、これまで団地化を検討していた地域が取り組めなくなり、1団地のみの形成に留まっているため。	24	21	88%	概ね達成	資材価格高騰の影響等により、1団地の形成に留まっていたが、先行投資型果樹団地の整備事業が認知されてきたことで、令和5年度は5団地で事業計画が承認された。	26	24	92%	概ね達成	資材価格高騰の影響等により、1団地の形成に留まっていたが、先行投資型果樹団地の整備事業が認知されてきたことで、令和5年度は5団地で事業計画が承認された。	28	R6年度	29	104%	達成	先行投資型果樹団地の認知が進み、令和6年度は5団地で事業計画が承認された。
(21)	水田畑地化整備面積(累計)	ha	2,580	R1年度	3,130	2,922	93%	概ね達成	高収作物(園芸作物等)への転作を後押しする排水改良や地下かんがい導入等の基盤整備を推進し、目標は概ね達成。	3,350	3,030	90%	概ね達成	高収作物(園芸作物等)への転作を後押しする排水改良や地下かんがい導入等の基盤整備を推進し、目標は概ね達成。	3,630	3,096	85%	概ね達成	高収作物(園芸作物等)への転作を後押しする排水改良や地下かんがい導入等の基盤整備を推進し、目標は概ね達成。	4,000	R6年度	3,125	78%	遅れ・未達成	農地の大区画整備を重点的に実施したため、進捗がやや低下した。令和7年度以降も地下かんがい等の基盤整備を推進し、高収作物(園芸作物等)の導入促進を図る。
(22)	果樹団地の面積(累計)	ha	0	R3年度	—	—	—	—	—	20	0	0%	遅れ・未達成	事業初年度で生産者への事業周知がまだ十分でなく、団地化に向けた地域の合意形成や農地の確保・確保に時間がかかったため。	40	9.4	24%	遅れ・未達成	次期に事業が認知されニーズが高まっているものの、団地化に向けた地域の合意形成や農地の選定・確保には時間を要するため、事業計画の策定が遅れたことにより目標は未達成。	60	R6年度	24.9	42%	遅れ・未達成	事業計画が承認された団地数は令和5年度が3団地、令和6年度が5団地と増加している。一方で、品目の統一等に関する合意形成や農地の確保に時間を要しており、想定していたスピードで団地化がすすまず、目標は未達成。
(23)	優先する防災重点農業利用池の対策実施率	%	30.5	R2年度	42	45.1	107%	達成	防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策による重点的な予算配分を受け、計画に沿った対策工事が実施できたため。	55	53	96%	概ね達成	防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策による重点的な予算配分を受け、概ね計画に沿った対策工事が実施できたため。	67	56	84%	概ね達成	工事実施に向けた地元関係者への時間を要しているものの、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策による重点的な予算配分を受け、概ね計画に沿った対策工事が実施できたため。	80	R6年度	62	78%	遅れ・未達成	工事実施に向けた地元関係者への時間を要し、進捗に遅れが生じているものの、防災に向けた調査計画が概ね進捗であり、R7に団地、R8には地区、R9以降1地区が採択される見込みであり、対策工事の進捗が図れる。
(24)	鳥獣による農作物被害額	百万円	464	R1年度	415	407	102%	達成	侵入防止柵設置、バロール、迷いし及び捕獲等を組み合わせた、住民主体の集落単位による被害対策ができるよう市町村と連携した支援を行い、対策が普及したことで、目標は達成。	390	357	108%	達成	侵入防止柵設置、バロール、迷いし及び捕獲等を組み合わせた、住民主体の集落単位による被害対策ができるよう市町村と連携した支援を行い、対策が普及したことで、目標は達成。	370	412	89%	概ね達成	野生鳥獣の餌であるアヲマシエタが普及することにより、前年度より被害額が増加したが、侵入防止柵設置、バロール、迷いし及び捕獲等を組み合わせた、住民主体の集落単位による被害対策ができるよう市町村と連携した支援を行い、対策が普及したことで、目標は達成。	350	R6年度	未公表			野生鳥獣の餌であるアヲマシエタが普及することにより、前年度より被害額が増加したが、侵入防止柵設置、バロール、迷いし及び捕獲等を組み合わせた、住民主体の集落単位による被害対策ができるよう市町村と連携した支援を行い、対策が普及したことで、目標は達成。

評価指標 (KPI)										単位	現状	基準 年・年度	R3 目標	R3年 実績	達成率	達成度	R3 達成・未達成の理由	R4 目標	R4年 実績	達成率	達成度	R4 達成・未達成の理由	R5 目標	R5年 実績	達成率	達成度	R5 達成・未達成の理由	最終 目標	年・年度	R6年 実績	達成率	達成度	R6 達成・未達成の理由
④地域活性化																																	
(25)	県の支援による活力ある地域づくりの実践件数(H26からの累計)	件	27	R2年度	39	43	110%	達成	中山間地域において、集落の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いをきっかけに、行動計画に向けた活動内容を実施する地域が増加しており、目標を達成。	51	57	112%	達成	中山間地域において、集落の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いをきっかけに、行動計画に向けた活動内容を実施する地域が増加しており、目標を達成。	63	79	125%	達成	中山間地域において、集落の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いをきっかけに、行動計画に向けた活動内容を実施する地域が増加しており、目標を達成。	75	R6年度	91	121%	達成	中山間地域において、集落の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いをきっかけに、行動計画に向けた活動内容を実施する地域が増加しており、目標を達成。								
(26)	中山間地域の農地保全取組面積	ha	8,434	R2年度	8,540	8,872	104%	達成	協定農用地の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いの支援や、農地管理の専任化支援等、農地保全取組の維持・拡大に向けた取組みを実施し、目標を達成。	8,640	8,992	104%	達成	協定農用地の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いの支援や、農地管理の専任化支援等、農地保全取組の維持・拡大に向けた取組みを実施し、目標を達成。	8,740	9011	103%	達成	協定農用地の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いの支援や、農地管理の専任化支援等、農地保全取組の維持・拡大に向けた取組みを実施し、目標を達成。	8,850	R6年度	9038	102%	達成	協定農用地の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いの支援や、農地管理の専任化支援等、農地保全取組の維持・拡大に向けた取組みを実施し、目標を達成。								
(27)	棚田地域振興法における指定棚田地域振興活動計画の認定地区数(累計)	地区	3	R2年度	6	5	83%	概ね達成	山形市及び白鷹町の地区が活動計画認定に賛同。他3市1町に対し申請の動きかけを行ったものの、地域の合意が得られず申請に至らなかったため、目標の達成は未達成。	9	5	56.0%	遅れ・未達成	活動計画認定に関心の高う市町村想進に対し、個別にヒアリング等を実施したものの、認定に必要な目標設定のハードルが高いことから、取組拡大に至っていない。	12	5	42%	遅れ・未達成	本年度の認定に向けて準備を進めている地域もあるが、認定に必要な目標設定のハードルが高いことから、取組拡大に至っていない。	15	R6年度	5	33%	遅れ・未達成	認定に必要な目標設定のハードルが高いことから、取組拡大に至っていない。								
(28)	小水力発電出力の合計(累計)	kW	1,927	R2年度	2,060	1,927	94%	概ね達成	農業水利施設を活用して小水力発電施設の導入を計画している民間発電事業者に対し、導入に向けた関係機関との調整や関連協議について指導・助言等を行い、目標は概ね達成。	2,240	1,927	86%	概ね達成	農業水利施設を活用して小水力発電施設の導入を計画している民間発電事業者に対し、導入に向けた関係機関との調整や関連協議について指導・助言等を行い、目標は概ね達成。	2,438	2,176	89%	概ね達成	県営事業により建設した2発電施設が運用を開始し、目標を概ね達成した。	2,573	R6年度	2,489	97%	概ね達成	農業水利施設を活用した小水力発電施設について、県営事業による施設整備を推進したほか、民間発電事業者に対して導入に向けた調整等を進めた結果、目標を概ね達成。								
(29)	木質バイオマス供給量(関連)	千t	202	R1年	227	182	80%	遅れ・未達成	R2にコロナの影響で木材の流通が滞り、製材所向けの材が不足しバイオマス施設にも多量な在庫を抱え、R3の供給量が減ったことにより、目標は未達成。	240	179	75%	遅れ・未達成	ウッドショックにより、製材用・集成材用の原木需要が増加したこと、木質バイオマス用原木の供給が減少したことにより、目標は未達成。	252	206	82%	概ね達成	木質バイオマス施設の需要に対応するため、木材生産量が増加したことにより、目標は概ね達成。	265	R6年	201	76%	遅れ・未達成	災害等の影響で木材生産量が減少したことにより、木質バイオマス用原木の供給量が減ったことから、目標は未達成。								
⑤環境保全型農業																																	
(30)	特別栽培農産物認証面積	ha	14,800	R1年度	15,600	14,626	94%	遅れ・未達成	制度説明会の開催や環境直支等支援の活用促進に取り組むが、特別栽培認証面積の増加には至らず、目標は未達成。	16,000	14,555	91%	遅れ・未達成	制度説明会の開催や環境直支等支援の活用促進に取り組むが、特別栽培認証面積は前年度より増加したが、目標は未達成。	16,400	14,633	89%	遅れ・未達成	制度説明会の開催や環境直支等支援の活用促進に取り組むが、特別栽培認証面積は前年度より増加したが、目標は未達成。	16,800	R6年度	14,667	87%	遅れ・未達成	制度説明会の開催や環境直支等支援の活用促進に取り組むが、特別栽培認証面積は前年度より増加したが、目標は未達成。								
(31)	国際GAP認証取得件数(累計)	件	36	R1年度	38	44	116%	達成	認証取得に係る費用について、国交付金を活用したこと、現場の普及員による丁寧な指導があり、取組の増加に結びつき、目標を達成した。	42	45	107%	達成	認証取得を啓発する研修会を開催し、また、審査費用について国交付金を活用したこと、更に現場の普及員による丁寧な指導があり、取組の増加に結びつき、目標は達成。	46	50	109%	達成	認証取得を啓発する研修会を開催し、また、審査費用について国交付金を活用したこと、更に現場の普及員による丁寧な指導があり、取組の増加に結びつき、目標は達成。	50	R6年度	52	104%	達成	認証取得を啓発する研修会を開催し、また、審査費用について国交付金を活用したこと、更に現場の普及員による丁寧な指導があり、取組の増加に結びつき、目標は達成。								
(32)	堆肥の活用面積	ha	3,473	R4年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3,600	3,532	98%	概ね達成	肥料高騰で堆肥等の活用が目玉となるなかで環境保全型農業推進基金交付金の推進や産地生産基盤パワーアップ事業を活用した実証に取り組み、目標は概ね達成。	3,800	R6年度	3,559	94%	概ね達成	肥料高騰で堆肥等の活用が目玉となるなかで環境保全型農業推進基金交付金の推進や産地生産基盤パワーアップ事業を活用した実証に取り組み、目標は概ね達成。								
基本戦略3 魅力ある確ける農林水産業の追求																																	
⑥土地利用型作物																																	
(33)	「つや姫」の相対取引価格の全国順位	位	2	R2年	2	2	100%	達成	高品質・良食味率の安定生産を図りながら、トップブランドとしての評価確立に向けた販促・PR活動を展開することで、目標は達成。	2	2	100%	達成	高品質・良食味率の安定生産を図りながら、トップブランドとしての評価確立に向けた販促・PR活動を展開することで、目標は達成。	1	2	—	遅れ・未達成	高品質・良食味率の安定生産や「つや姫」の評価の更なる向上に向けた販促・PRを展開しながら、「つや姫」は全国トップブランドとしての地位を確立しているものの、目標は未達成。	1	R6年	未公表	—	—	—								
(34)	「雪乃丸」の全国認知度	%	33	R2年	60	31.0	52%	遅れ・未達成	テレビCMの制作・放映、SNSを活用した情報発信やキャンペーンの展開等を行ったが、県外への認知度が伸び悩み、目標は未達成。	80	34.5	43%	遅れ・未達成	テレビCMの制作・放映、SNSを活用した情報発信やキャンペーンの展開等により、認知度は上昇しているものの、目標は未達成。	80	43.7	55%	遅れ・未達成	テレビCMを軸としたクロスメディアプロモーション等の展開により、徐々に認知度が向上しているものの、目標は未達成。	80	R6年	44.9	56%	遅れ・未達成	テレビCMを軸としたクロスメディアプロモーション等の展開により、徐々に認知度が向上しているものの、目標は未達成。								
(35)	「生産の目安」の範囲内における主食用米生産	%	100	R2年	100	100	100%	達成	関係機関・団体が連携して「生産の目安」を設定するとともに、その目安に沿った米生産をオール山形体制で推進したことで、目標は達成。	100	100	100%	達成	関係機関・団体が連携して「生産の目安」を設定するとともに、その目安に沿った米生産をオール山形体制で推進したことで、目標は達成。	100	100	100%	達成	関係機関・団体が連携して「生産の目安」を設定するとともに、その目安に沿った米生産をオール山形体制で推進したことで、目標は達成。	100	R6年	100	100%	達成	関係機関・団体が連携して「生産の目安」を設定するとともに、その目安に沿った米生産をオール山形体制で推進したことで、目標は達成。								
(36)	大豆「里のほほえみ」(シュウリょう)作付面積拡大	ha	2,654	R1年	2,800	2,589	92%	遅れ・未達成	各地域に展示ほを設置、研修会等を通じた技術の普及を進めたが、一部で肥料利用率への転換が遅いことから大豆全体の作付減少にとまじない、目標は未達成。	3,000	2,792	93%	概ね達成	各地域に展示ほを設置、研修会等を通じた技術の普及を進めたことから、対象品種の作付は拡大し、目標は概ね達成。	3,200	2,834	89%	概ね達成	各地域に展示ほを設置、研修会等を通じた技術の普及を進めたことから、対象品種の作付は拡大し、目標は概ね達成。	3,500	R6年	未公表	—	—	—								
(37)	そば「山形BWS号」作付面積拡大	ha	79	R1年	100	85	85%	概ね達成	重点品種として県内各地域に展示ほを設置し、普及を進めたことにより、目標は達成。	120	96	80%	概ね達成	重点品種として県内各地域の展示ほ設置を継続し、普及を進めたことから、面積が増加して目標は概ね達成。	140	122	87%	概ね達成	重点品種として展示ほ設置を継続し、普及を進めたことから、面積が増加して目標は概ね達成。	160	R6年	未公表	—	—	—								
⑦果樹																																	
(38)	さくらんぼ産出額	億円	351	H26～30年平均	353	319	90%	遅れ・未達成	4月の凍害害と開花期の天候不良のため収穫量の減少により目標は未達成。	355	378	106%	達成	収穫量が前年より増加し、販売単価が高水準で推移したため目標を達成。	357	378	106%	達成	収穫量が前年より増加し、目標を達成。	380	R6年	未公表	—	—	—								
(39)	西洋なし産出額	億円	56	H26～30年平均	56	58	104%	達成	4月の凍害害で収穫量が減少したが、販売単価が高かったことにより目標は達成。	57	66	116%	達成	収穫量が前年より増加し、販売単価が高水準で推移したため目標を達成。	57	60	105%	達成	収穫量は夏季の高温少雨等の影響のため大きく減少したものの、販売価格が高水準であったため、目標を達成。	58	R6年	未公表	—	—	—								
(40)	りんご10a当たり収穫量	kg/10a	2,020	H27～R1年平均	2,060	1,530	74%	遅れ・未達成	4月の凍害害と開花期の天候不良のため収穫量減少により目標は未達成。	2,100	1,990	95%	遅れ・未達成	作柄は概ね平年並みであったが、一部地域で降雹による減収がもたらされた。	2,150	1,500	70%	遅れ・未達成	夏季の高温少雨により、県生・中・高品種を中心に、日焼けや着色遅延、生産障害が発生しことから収量が少なくなり、目標は未達成。	2,200	R6年	1,670	76%	遅れ・未達成	一部の地域で主要品種である「ふじ」の花芽が少なく、着果量が不足したこと、夏季の高温少雨の影響で早生種を中心に日焼けが発生したため、目標は未達成。								
(41)	ぶどう産出額	億円	108	H26～30年平均	114	148	130%	達成	4月の凍害害のため収穫量が減少したが、高単価の大粒種の増加により目標は達成。	121	137	113%	達成	収穫量は前年をやや下回ったが、高単価の大粒種の増加により目標は達成。	128	139	109%	達成	収穫量は前年並みであったが、販売単価は前年をやや上回り、目標を達成。	135	R6年	未公表	—	—	—								
(42)	もも産出額	億円	29	H26～30年平均	30	48	160%	達成	大玉の中晩生品種の導入が進み、高単価のギフト向け販売の増加により目標は達成。	32	47	147%	達成	大玉の中晩生品種の導入が進み、高単価のギフト向け販売の増加により目標は達成。	34	48	141%	達成	収穫量は夏季の高温少雨の影響のため減少したものの、販売単価が高水準であったため、目標を達成。	36	R6年	未公表	—	—	—								
(43)	かき10a当たり収穫量	kg/10a	880	H27～R1年平均	880	720	82%	遅れ・未達成	4月の凍害害による着果数の減少のため目標は未達成。	910	886	97%	概ね達成	奇形果、ほみ果の発生が多く、摘袋で対応したこと、着果数がやや少ない目標は未達成。	940	741	79%	遅れ・未達成	収穫量前に、庄内地域広域で降雹害が複数発生したため、収穫量が少くなり、目標は未達成。	1,000	R6年	955	96%	概ね達成	着果数が平年並みやや多く、果実肥大が良好であったことから、目標を概ね達成。								
(44)	すもも産出額	億円	8	H26～30年平均	8	10	125%	達成	大玉の中晩生品種の導入が進み、高単価のギフト向け販売の増加により目標は達成。	9	10	111%	達成	大玉の中晩生品種の導入が進み、高単価のギフト向け販売の増加により目標は達成。	9	8	89%	概ね達成	収穫量は夏季の高温少雨の影響のため前年より大きく減少したが、高単価の大玉品種の増加により目標を概ね達成。	10	R6年	未公表	—	—	—								
⑧野菜・花き																																	
(45)	えだまめ産出額	億円	49	R2年	50	47	94%	遅れ・未達成	生育が順調に経過し、生産量は前年を上回ったものの、出荷額が減少する産地比率の傾向で、販売単価が前年より低下したため、目標は未達成。	51	40	78%	遅れ・未達成	8月の集中豪雨等の影響のため、生産量が前年を大きく下回ったこと、統合産地の出荷集みや物流高騰による需要減少等のため、販売単価が前年をやや下回ったことにより、目標は未達成。	52	36	69%	遅れ・未達成	高温少雨の影響で8月下旬以降に出荷期を迎えた品種を中心に、出荷額や出荷単価が減少し、生産量が前年より減少したため、目標は未達成。	53	R6年	未公表	—	—	—								
(46)	高収益野菜(トマト、メロン、きゅうり、すいか)の産出額	億円	164	H26～30年平均	172	182	106%	達成	すいかやメロンについては、産地と関係機関が一体となった取組みにより、安定生産やブランド強化が図られてきており、それに伴い単価が上昇しているため、目標は達成。	180	176	98%	概ね達成	すいかやメロンについては、交配期間の天候不順、トマトやきゅうりについては生長期中の高温や、日照不足等により生産量が減少したものの、販売単価が高水準で推移したため目標は概ね達成。	188	172	91%	概ね達成	高温少雨の影響で、生産量が前年より減少したものの、販売単価が高水準で推移したため、目標は概ね達成。	197	R6年	未公表	—	—	—								
(47)	土地利用型野菜(アスパラガス、ねぎ)の産出額	億円	54	H26～30年平均	59	64	108%	達成	アスパラガス、ねぎについては、共同連盟施設の整備等により、栽培面積が増加しているため、目標は達成。	64	66	103%	達成	アスパラガスなどにはについては、生育が順調に経過し、生産量が前年を上回ったため、目標は達成。	69	65	94%	概ね達成	高温少雨の影響で、生産量が前年より減少したものの、販売単価が高水準で推移したため、目標は概ね達成。	75	R6年	未公表	—	—	—								
(48)	花き産出額	億円	70	H26～30年平均	74	60	81%	遅れ・未達成	燃料価格の高騰等の影響を受け、ばら、トルコぎょう、ゆりなど主要花きの生産が減少しており、目標は未達成。	77	70	91%	概ね達成	生産量は減少したものの、新型コロナウイルスの影響により減産した業務需要の回復により、販売単価が上昇したため、目標は概ね達成。	80	70	88%	概ね達成	夏季の高温少雨の影響などで生産量は減少したものの、新型コロナウイルスの影響で減産した業務需要の回復や全国的な生産量の減少により、販売単価が前年を上回ったため、目標は概ね達成。	83	R6年	未公表	—	—	—								
(49)	やまがた方式次世代施設園芸導入組織の数	か所	4	R2年度	5	5	100%	達成	ICT環境モニタリング装置、換気用の自動換気装置、ミスト発生装置等を導入したやまがた方式次世代施設園芸の拠点が増加し、目標は達成。	6	6	100%	達成	ICT環境モニタリング装置、換気用の自動換気装置、ミスト発生装置等を導入したやまがた方式次世代施設園芸の拠点が増加し、目標は達成。	7	6	86%	概ね達成	組織内での個別導入は進んだが資材高騰の影響等により、新規の組織への導入ははげなかった。	8	R6年度	7	88%	概ね達成	ミスト発生装置等を導入したやまがた方式次世代施設園芸の拠点が増加し、目標は概ね達成。								



評価指標（KPI）		単位	現状	基準 年・年度	R3 目標	R3年 実績	R3 達成率	R3 達成度	R3 達成・未達成の理由	R4 目標	R4年 実績	R4 達成率	R4 達成度	R4 達成・未達成の理由	R5 目標	R5年 実績	R5 達成率	R5 達成度	R5 達成・未達成の理由	R6 最終 目標	年・年度	R6年 実績	R6 達成率	R6 達成度	R6 達成・未達成の理由
⑨畜産																									
(50)	畜産産出額	億円	361	H30年	396	392	99%	概ね達成	規模拡大による飼養頭数の増加と生産性の向上により目標を概ね達成	404	411	102%	達成	飼養頭数に伴う黒肉和牛の販売価額向上と、豚の販売価額増加により目標を達成	413	441	107%	達成	黒肉和牛の出荷頭数の増加、豚の枝肉価格の上昇及び豚飼養頭数の上昇に伴う豚販売価額増加により目標を達成	423	R6年	未公表			
(51)	農業者当たり肉用牛産出額	万円	1,619	H29年	1,908	2,195	115%	達成	規模拡大による飼養頭数の増加と生産性の向上により目標を達成	1,938	2,496	129%	達成	規模拡大による農家一戸あたりの飼養頭数及び販売価額の増加により目標を達成	1,984	2,813	142%	達成	規模拡大による農家一戸あたりの飼養頭数及び販売価額の増加により目標を達成	2,015	R6年	未公表			
(52)	経産牛1頭当たりの生乳生産量	kg	7,578	R1年	7,700	7,337	95%	遅れ・未達成	農家戸数減少に伴う生乳生産量の減少により目標が未達成	7,750	7,057	91%	遅れ・未達成	搾乳牛頭数及び生乳生産量は増加したが、1産目の頭数割合が増えたことにより1頭あたりの生乳生産量が減少した	7,800	7,030	90%	遅れ・未達成	高幹牛の頭数割合が増えたことや夏季における暑熱の影響から、1頭あたりの生乳生産量が減少したことにより目標は未達成	7,850	R6年	未公表			
(53)	豚の飼養頭数	頭	154,600	R1年	160,000	166,600	104%	達成	規模拡大による飼養頭数の増加と生産性の向上により目標を達成	165,000	184,900	112%	達成	規模拡大による飼養頭数の増加と生産性の向上により目標を達成	170,000	169,600	100%	概ね達成	規模拡大による飼養頭数の増加と生産性の向上により目標を概ね達成	175,000	R6年	159,900	91%	概ね達成	規模拡大による飼養頭数の増加と生産性の向上により目標を概ね達成
(54)	肉用鶏の飼養頭数(やまがた地鶏を含む)	千羽	660	R1年	670	677	101%	達成	規模拡大による飼養頭数の増加と生産性の向上により目標を達成	675	650	96%	遅れ・未達成	規模拡大に伴う鶏舎等の整備により飼育羽数が増加したが、一部の生産者の廃業により目標は未達成	680	614	90%	遅れ・未達成	一部の生産者の廃業により目標は未達成	685	R6年	590	86%	遅れ・未達成	一部の生産者の廃業により目標は未達成
(55)	発酵酢菌飼料作付面積	ha	922	R1年	940	966	103%	達成	作付け後の主食用米作付面積削減に伴う、WCS用種への用途転換により目標を達成	970	1,115	115%	達成	規模拡大が進んだことと、飼料高騰で自給飼料の需要が増加したことにより目標を達成	1,020	1,239	121%	達成	飼料高騰で自給飼料の需要が増加したことにより目標を達成	1,100	R6年	1,366	124%	達成	飼料価格高騰で自給飼料の需要が増加したことにより目標を達成
(56)	子実用トウモロコシ作付面積	ha	64	R4年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	80	89	111%	達成	生産と利用のマッチングが進んだこと、飼料高騰で自給飼料の需要が増加したことにより目標を達成	120	R6年度	96	80%	遅れ・未達成	前年度における鳥獣害等の影響により作付け面積が増えなかったため、目標は未達成。
(57)	農場HACCP認定数	農場	16	R1年	20	22	110%	達成	関係機関と連携した指導体制により目標を達成	22	23	105%	達成	関係機関と連携した指導体制により目標を達成	24	23	96%	概ね達成	関係機関と連携した指導体制により目標を概ね達成	26	R6年	未公表			
⑩6次産業化																									
(58)	6次産業化に取り組む事業者のEC参入率	%	21.3	R1年	28	27.9	99.6%	概ね達成	インターネット販売や、オンラインを活用した新たな販売促進の取組みを行う農林漁業者等に対し、新規ECサイト開設・リニューアル等に係る経費の補助を実施、目標は概ね達成	32	31.7	99%	概ね達成	デジタル技術を活用した販路拡大等に取り組む産地連携や地域農協等に対して、ECサイト開設等に係る経費の補助を実施、目標は概ね達成	36	32.4	90%	概ね達成	販売チャネルの多角化に取り組む農林水産漁業者や産地直売所の農産品販売を行うためのECサイト出店に係る費用の補助を実施、目標は概ね達成	40	R6年	未公表			
(59)	農泊・農家レストラン等の取組みを推進する地域の数(累計)	か所	11	R1年度	13	11	85%	概ね達成	目標の85%を達成したものの、コロナ感染拡大の影響により、利用者が減少し地域の機運が高まらなかったことが課題となっている。	15	12	80%	概ね達成	農泊推進に向けた研修会を実施し、目標は概ね達成	17	16	94%	概ね達成	農泊推進に向けた研修会を実施し、目標は概ね達成	20	R6年度	16	80%	概ね達成	農泊推進に向けた研修会を実施し、目標は概ね達成。
(60)	食品製造業等における農産品・畜産物の使用割合(重要ベース)	%	40.7	R1年	42.5	41.6	98%	概ね達成	県内産地・農林水産業と食品製造業に関する情報収集・分析を行い、マッチング機能を強化、目標は概ね達成。	43.4	40.5	93%	概ね達成	県内産地・農林水産業と食品製造業に関する情報収集・分析を行い、マッチング機能を強化、目標は概ね達成。	44.2	41.2	93%	概ね達成	県内産地・農林水産業と食品製造業に関する情報収集・分析を行い、マッチング機能を強化、目標は概ね達成。	45	R6年	41.7	93%	概ね達成	県内産地・農林水産業と食品製造業に関する情報収集・分析を行い、マッチング機能を強化、目標は概ね達成。
(61)	産地直売所販売額	億円	114	R1年	127	126	99%	概ね達成	コロナ感染拡大の影響により、イベントによる売り上げは減少したものの、暑くも重要な影響もあり、目標は概ね達成	131	130	99%	概ね達成	全国旅行支援により観光客が回復傾向にあることや、年間を通して品揃えの充実、商品の品質向上、イベント等の開催もあり、目標は概ね達成。	135	140	104%	達成	コロナ感染症の規制緩和により観光客が戻ってきたことや、年間を通して品揃えの充実、品質向上、SNSを活用した情報発信、イベント等の開催もあり、目標は概ね達成。	140	R6年	145.9	104%	達成	年間を通して品揃えの充実、品質向上、SNSを活用した情報発信、イベント等の開催により販売額が上昇した。
(62)	6次産業化支援機関等が支援した新商品の流通・販売件数(累計) ※括弧内はうち米粉食品	件	30	H29～R2年度	42	48	114%	達成	支援機関が連携して取り組んだことで、新商品開発件数が増加し、目標は達成。	72 (14)	83 (14)	115%	達成	支援機関が連携して取り組んだことで、新商品開発件数が増加し、目標は達成。	85 (20)	100 (25)	118%	達成	支援機関が連携して取り組んだことで、新商品開発件数が増加し、目標は達成。	100 (25)	R6年度	113 (31)	113% (124%)	達成	支援機関が連携して取り組んだことで、新商品開発件数が増加し、目標は達成。
⑪流通販売・輸出促進																									
(63)	県産農林水産物へのペロリマーク等の表示(品目数(R1からの累計)	品目	2,321	R1年度	2,360	2,423	103%	達成	県産農産物を利用した商品開発に取り組む事業者に対して周知を図る等の取組みの結実、目標を達成した。	2,400	2,460	1	達成	県産農産物を利用した商品開発に取り組む事業者に対して周知を図る等の取組みの結実、目標を達成した。	2,440	2,501	103%	達成	県産農産物を利用した商品開発に取り組む事業者に対して周知を図る等の取組みの結実、目標を達成した。	2,480	R6年度	2,542	103%	達成	県産農産物を利用した商品開発に取り組む事業者に対して周知を図る等の取組みの結実、目標を達成した。
(64)	地理的表示(GI)保護制度登録件数(累計)	件	4	R1年度	5	5	100%	達成	GI登録促進ワークショップ等を通じ、GI登録(候補)商品と産地の権利共有の意識の整理等を行った。目標は達成。	6	5	83%	概ね達成	GI登録登録促進を図るためのセミナーを開催した。GI登録登録した産品はなかったが、累計では目標は達成。	7	5	71%	遅れ・未達成	GI登録登録促進を図るためのセミナーを開催した。GI登録登録した産品はなかったが、累計では目標は達成。	8	R6年度	5	63%	遅れ・未達成	GI登録(候補)産品の情報共有や課題の整理を行うとともに、登録促進を図るためのセミナーを開催したが、登録は5品目にとどまり、目標は未達成。
(65)	東京都中央卸売市場における県産農産物割合(果実) の取扱数量割合	野菜 果実	1.38 5.13	R1年 R1年	1.39 5.29	1.21 4.85	87% 92%	遅れ・未達成	令和3年4月の流通費や令和3年5、6月の降雹による農産物への影響等の影響等により、目標を下回った。	1.40 5.45	1.19 5.11	85% 94%	遅れ・未達成	コロナ禍で中断していた卸売市場でのトップセールや首都圏での商談会を開催するとともに、大消費地での情報収集・分析、産地への情報提供などを実施したが、目標は未達成。	1.41 5.61	1.10 4.77	78% 85%	遅れ・未達成	卸売市場でのトップセールや首都圏での商談会を開催するとともに、大消費地での情報収集・分析、産地への情報提供などを実施したが、目標は未達成。	1.42 5.80	R6年 R6年	1.04 4.83	73% 83%	遅れ・未達成	卸売市場でのトップセールや首都圏での商談会を開催するとともに、大消費地での情報収集・分析、産地への情報提供などを実施したが、目標は未達成。
(66)	学校給食における交流給食の実施割合	%	30	R1年度	70	61.9	88%	概ね達成	各市町村の給食における交流給食の実施を支援したことにより、食育の取組みが浸透してきているもの、目標は達成した。	80	53.7	67%	遅れ・未達成	各市町村の給食における交流給食の実施を支援し、食育の取組みが浸透してきているもの、目標は未達成。	90	69.3	77%	遅れ・未達成	各市町村の給食における交流給食の実施を支援し、食育の取組みが浸透してきているもの、目標は未達成。	100	R6年度	64.6	65%	遅れ・未達成	各市町村の給食における交流給食の実施を支援し、食育の取組みが浸透してきているもの、目標は未達成。
(67)	県産農産物輸出額	百万円	828	R1年度	1,200	867	72%	遅れ・未達成	令和3年度は各国の経済活動が徐々に再開したことにより輸出量に過去最大となった。輸出額は過去5年間で2倍目に高い水準となったが相場の高水準の中で伸び悩む目標を下回った。	1,300	1,051	81%	概ね達成	令和4年度はR1年ごろの輸出量が増加したこととから、輸出額、輸出額にも過去最高を更新し、目標は概ね達成。	1,400	1,148	82%	概ね達成	令和5年度は「米」の輸出量が増加したこととから、輸出額、輸出額にも過去最高を更新し、目標は概ね達成。	1,500	R6年度	1,371	91%	概ね達成	令和6年度は「米」の輸出量が増加したこととから、輸出額、輸出額にも過去最高を更新し、目標は概ね達成。
基本戦略4「やまがた森林・ミニクス」の加速化																									
⑫人材育成・地域づくり																									
(68)	林業の新規就業者数(4年間の累計)	人	237	H28～R1年度	70	61	87%	概ね達成	県立大学で林業に就業希望の学生に「緑の青年就業準備給付金」を交付するとともに、新規就業希望者を対象にした講習会や、就業ガイダンスを開催し、目標は概ね達成。	140	133	95%	概ね達成	県立大学で林業に就業希望の学生に「緑の青年就業準備給付金」を交付するとともに、新規就業希望者を対象にした講習会や、就業ガイダンスを開催し、目標は概ね達成。	210	193	92%	概ね達成	県立大学で林業に就業希望の学生に「緑の青年就業準備給付金」を交付するとともに、新規就業希望者を対象にした講習会や、就業ガイダンスを開催し、目標は概ね達成。	280	R6年度	268	96%	概ね達成	県立大学で林業に就業希望の学生に「緑の青年就業準備給付金」を交付するとともに、新規就業希望者を対象にした講習会や、就業ガイダンスを開催し、目標は概ね達成。
(69)	複数の森林資源をパッケージ化した体験ツアーの件数(累計)	件	1	R2年度	2	2	100%	達成	本県の豊かな森林資源と林業関係施設(林材所、木質バイオマス発電所)を活用した教育旅行がパッケージ化され、目標は達成。	4	2	50%	遅れ・未達成	R4からの内、専門家で構成する検討会を開催し、森林ツアーを産地直出に向けた取組み(森林資源を活用した体験型モデルツアー)一貫した検討等を本格的に始めたことにより、目標は未達成。	6	4	67%	遅れ・未達成	R5からの森林資源を活用した体験型モデルツアー実施に支援した2件(累計4件)に留まり、目標は未達成。	8	R6年度	6	75%	遅れ・未達成	森林資源を活用した体験型モデルツアー実施に支援した2件(累計6件)に留まり、目標は未達成。
⑬県産木材の安定供給・森林の多面的機能																									
(70)	林業労働生産性	㎡/人日	6.0	H30年度	6.6	6.9	105%	達成	県産木材の安定供給に向け、事業者の高性能林業機械等の導入やレンタル事業の支援等による低コスト作業システムの推進により、目標は達成。	7.0	7.0	100%	達成	県産木材の安定供給に向け、事業者の高性能林業機械等の導入やレンタル事業の支援等による低コスト作業システムの推進により、目標は概ね達成。	7.4	7.2	97%	概ね達成	県産木材の安定供給に向け、事業者の高性能林業機械等の導入やレンタル事業の支援等による低コスト作業システムの推進により、目標は概ね達成。	7.8	R6年度	7.2	92%	概ね達成	県産木材の安定供給に向け、事業者の高性能林業機械等の導入やレンタル事業の支援等による低コスト作業システムの推進により、目標は概ね達成。
(71)	再造林面積	ha	95	R1年度	140	107	76%	遅れ・未達成	前年度の主力面積がコロナの影響で減少し、R3の再造林面積の伸びが少なかつたことにより、目標は未達成。	160	145	91%	概ね達成	再造林の支援強化等により再造林面積が増加し、目標は概ね達成。	180	155	86%	概ね達成	再造林の支援強化等により再造林面積が増加し、目標は概ね達成。	200	R6年度	153	77%	遅れ・未達成	再造林等により伐採を年度内に持ち越した取組があり面積が伸びなかった。
(72)	森林経営管理制度に基づく森林整備を実施している市町村数	—	1	R1年度	10	3	30%	遅れ・未達成	森林整備を実施する前段として森林所有者の意向調査を行う必要があるが、所有界や林分が不明確な箇所が多く、調査対象林の抽出などの事務作業に時間を要しているため、目標は未達成。	20	3	15%	遅れ・未達成	森林整備を実施する前段として森林所有者の意向調査を行う必要があるが、所有界や林分が不明確な箇所が多く、調査対象林の抽出などの事務作業に時間を要しているため、目標は未達成。	30	5	17%	遅れ・未達成	森林整備を実施する前段として森林所有者の意向調査を行う必要があるが、所有界や林分が不明確な箇所が多く、調査対象林の抽出などの事務作業に時間を要しているため、目標は未達成。	34	R6年度	9	26%	遅れ・未達成	森林整備を実施する前段として森林所有者の意向調査を行う必要があるが、所有界や林分が不明確な箇所が多く、調査対象林の抽出などの事務作業に時間を要しているため、目標は未達成。
(73)	虎鹿森林の整備面積	ha	1,112	R2年度	1,160	919	79%	遅れ・未達成	上平野の黒山林における緊急伐倒面積が計画より減少したこと及び単位面積当たりの施工費の上昇等により、目標は未達成。	1,160	889	77%	遅れ・未達成	閑休に係る人員費等の単位面積当たりの施工費が上昇し、計画より実施工費が減少したことにより、目標は未達成。	1,160	994	86%	遅れ・未達成	人工林整備面積、黒山林整備面積と前年実績を上回ったことで、単位面積当たりの施工費の上昇等により、目標は未達成。	1,160	R6年度	914	79%	遅れ・未達成	単位面積当たりの施工費の上昇等により、目標は未達成
(74)	個別施設計画に基づく治山施設等の長寿命化対策率	%	0	R2年度	8	12	150%	達成	防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策を実施すると共に、目標以上の対策工事が実施できたため、目標は達成。	16	22	138%	達成	令和4年度から機能強化・老朽化対策事業により、対策工事に着手したため、	24	55	229%	達成	令和4年度から機能強化・老朽化対策事業により、対策工事に着手したため、	32	R6年度	55	172%	達成	令和4年度から機能強化・老朽化対策事業により、対策工事に着手したため、
⑭県産木材の加工流通体制の強化・付加価値向上																									

No.	評価指標 (KPI) プロジェクト目標指標	単位	現状	基準 年・年度	R3 目標	R3年		達成率	達成度	R3 達成・未達成の理由	R4 目標	R4年		達成率	達成度	R4 達成・未達成の理由	R5 目標	R5年		達成率	達成度	R5 達成・未達成の理由	最終 目標	年・年度	R6年		達成率	達成度	R6 達成・未達成の理由	
						実績						実績						実績							実績					
(75)	JAS製品等出荷量(木材)	千㎡	77	H30年	92	95	103%		達成	JAS認定取得支援の結果、JAS認定工場の増加やJAS集材工場の増設に伴う出荷量の増加により、目標は達成。	96	82	85%		概ね達成	大手製材工場等で製材出荷量減に伴い減少したが目標は概ね達成	98	76	78%		遅れ・未達成	建築物の着工数等が減少し、それに伴い製材品の需要が伸びなかったため、目標は未達成	100	R6年	76	76%		遅れ・未達成	建築物の着工数が減少し、それに伴い製材品の需要が伸びなかったため、目標は未達成	
⑤県産木材の利用促進・特用林産の振興																														
(76)	民間施設の木造化率	%	37	R1年度	40	39.2	98%		概ね達成	県産木材を使用する店舗・事務所等の新築民間施設への補助金の交付など、民間施設の木造化推進により、目標は概ね達成。	43	35.3	82%		遅れ・未達成	ウッドショックにより製材品の入手が困難となり、木造建築物棟数が減少したため、目標は未達成。	46	35.4	77%		遅れ・未達成	ウッドショックの影響は収まりつつあるが、資材高騰が続き、木造建築物棟数が減少したため、目標は未達成	50	R6年度	33.8	68%		遅れ・未達成	資材高騰の影響等により、木造建築物棟数が減少したため、目標は未達成	
(77)	木質バイオマス供給量	千t	202	R1年	227	182	80%		遅れ・未達成	R2にコロナの影響で木材の流通が停滞し、製材所向け材が木質バイオマス施設に多く流れ在庫を抱え、R3の供給量が減ったことにより、目標は未達成。	240	179	75%		遅れ・未達成	ウッドショックにより原木需要が増加した製材用、集材用を主とした供給体制となり、相対的に木質バイオマス用原木の供給量が減ったことから、目標は未達成。	252	206	82%		概ね達成	木質バイオマス施設の需要に対応するため、素材生産量が増加したことにより、目標は概ね達成	265	R6年	201	76%		遅れ・未達成	災害等の影響で素材生産量が減少したことにより、木質バイオマス用原木の供給量が減ったことから、目標は未達成。	
(78)	山菜・きのこの生産量	t	10,400	R1年	10,600	8,995	85%		遅れ・未達成	生産基盤整備の支援、生産者研修会、栽培技術指導など、生産振興を図ったものの、多くのキノコ類価格は下落傾向にあることや産地間競争の激化により、目標は未達成。	10,700	8,688	81%		遅れ・未達成	生産基盤整備の支援、生産者研修会、栽培技術指導など、生産振興を図ったものの、産地間競争やコロナ禍による外食需要の減少などから、目標は未達成。	10,900	7,641	70%		遅れ・未達成	生産基盤整備の支援、生産者研修会、栽培技術指導など、生産振興を図ったものの、産地間競争や生産コストの上昇などから、目標は未達成。	11,000	R6年	7,144	65%		遅れ・未達成	災害によるきのこ生産者の廃業や生産停止により、きのこ生産量が減少したことから、目標は未達成。	
基本戦略5 水産業の成長産業化																														
⑥海面漁業																														
(79)	経営体あたりの海面漁業生産額	万円	695	H30年	772	617	79.9%		遅れ・未達成	令和3年は全面的に水産資源(サケ、イカなど)が不足し、本県においても主要魚種であるスルメイカ、サケ、タラ、ハタハタの漁獲量が大きく減少した。	798	621	78%		遅れ・未達成	本県的主力魚種であるスルメイカ、ハタハタの漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	824	630.8	77%		遅れ・未達成	本県的主力魚種である、ハタハタ、サケの漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	850	R6年	未公表					
(80)	ブランド魚種の平均単価	円/kg	2,529	H30年	2,877	3,099	108%		達成	R3については、ズワイガニの単価が大きく伸びたことが全体の単価を押し上げた。	3,051	2,873	94%		概ね達成	ブランド魚種(3種)のうち、トラフグの単価が昨年より大きく下がったが、全国的な不漁の影響によりサワラの単価が大幅に伸びたため、目標は概ね達成。	3,225	3,309	103%		達成	ブランド魚種のうち、サワラの単価が下がったものの、トラフグ、ズワイガニが大きく伸びたため。	3,400	R6年	未公表					
⑦内水面漁業																														
(81)	「ニジサクラ」の成魚出荷尾数	尾	50	R1年度	630	30	5%		遅れ・未達成	不適切な種苗の混入と魚病発生による生産減	5,600	400	7%		遅れ・未達成	成育過程での魚病の発生と豪雨災害による流出による生産減。	12,000	2,790	23%		遅れ・未達成	高温と豪雨災害による流出による生産減。	12,000	R6年度	未公表					
⑧県産水産物の利用拡大																														
(82)	県産水産物の県内陸部における流通割合(市場内流通量)	%	6.3	R1年	8.0	4.2	53%		遅れ・未達成	水産資源の減少とコロナ禍による県内需要の減による出荷減	9.0	3.7	41%		遅れ・未達成	継続した取組みの結果、加工品の取扱量は増えたものの、取扱量の減少により、鮮魚と冷凍魚の取扱量が減少したため、目標は未達成。	10.0	3.5	35%		遅れ・未達成	スルメイカ(冷凍)の水揚げが減少したため、目標は未達成。	11.0	R6年	未公表					
⑨水産環境の確保・活用																														
(83)	遊漁証の発行枚数	枚	11,199	R1年度	12,200	10,379	85%		遅れ・未達成	コロナ禍による移動制限の影響	13,480	9,116	68%		遅れ・未達成	内陸部を中心に令和4年8月豪雨の影響と恒冬によるワカサギ釣りの不振により遊漁者が減少したため、目標は未達成。	14,240	8,935	63%		遅れ・未達成	コロナによる制限は解除されたものの、夏は酷暑により釣り人激減ならず、また恒冬によりワカサギ釣りが不振となり、目標は未達成。	15,000	R6年度	未公表					